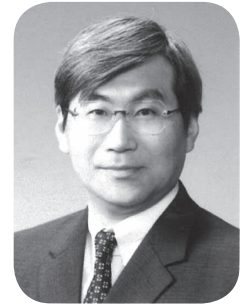


■ より高い信頼性と 企画の遠大性と



山田 真人*

若田光一さんが国際宇宙ステーションの船長を務めるという。多様な国籍・専門性をもつ錚々たるメンバーから成る所属組織からの厚い信頼あつてのことであり、世界を舞台に活躍する日本人が増えているなかでもとりわけ画期的なことだ。PCの分野でも設計、施工、施工管理の幅広い分野で日本人エンジニアが世界の主要なインフラ建設を託されるケースが増えていて素晴らしいことだと思う。

一方で今年は、体罰指導、鉄道や航空機事故、原発での汚染水流出、大手銀行の不正な融資、食材の誤表示・偽装、新薬の臨床試験データ偽装等々、日本社会の信頼を揺るがす事件も相次いだ。コンプライアンス遵守が喧伝されるなかでこのような事件が後を絶たないのは何故なのだろうか。

貨幣経済を始め現代社会を支えるのは幾重にも積み重ねられた信頼である。信頼の一部にでも「信頼の乏しいもの」が混じり込んだ時にどうなるのかはサブプライムローン問題で経験済みだ。信頼をすべて汚染し尽くし、懸命の努力を続ける多くの人々の努力は水泡に帰す。まさに蟻の一穴が巨大システムをも崩壊に導く。チャレンジャー号やコロンビア号の事故のように。信頼性の乏しいものは幾重に積み重ねようと、フェイルセーフやフルプルーフ機構を付与しようと結局使いものにならない。「企業は株主のものである」として株主価値の最大化を短期的に実現しようとする英米型の考えと違って、日本にはもともと、たとえば、近江商人の理念の一つといわれる「三方よし；買い手よし、売り手よし、世間よし」のようにすべてのステークホルダーをバランスよく大切に作る風土や信頼を重んじる考えがあつたはずだ。日本人としての美德を守って7年後の東京五輪で世界の人々とともに「おもてなし」したいものだと思う。

1989年当時欧州に長期滞在した時のこと、私を日本人と知るやいきなり「日本の自動車は本当に故障しない。自動車は修理に出すのがあたり前だと思っていた

生活が嘘のようだ。素晴らしい。」といわれた経験が少なからずある。英語にもなったKAIZENに象徴される日本のモノづくりは高い信頼性の連鎖で成り立ってきた。日本車への批判を強めても自社への信頼性が高くなるわけでも競争力が増すわけでもないことに早く気付いていれば、クライスラーやGMの破綻はなかったであろう。フェアプレーで競う中に、良き技術、感動を呼ぶ体験が生まれるのだと思う。

自動車産業と社会インフラの建設とを同列に論じられないのはもちろんだが、より信頼性の高い材料や工法、検査方法が実用化されたならば、それらに積極的にシフトしていくことで長期的には経済的で、より信頼性の高い構造物の実現が可能になるはずだ。過度の実績主義と保守的な姿勢は技術の進歩を妨げ、場合によっては負の遺産を残し、産業の競争力を永遠に喪失させることにもなりかねない。

昨今の地球規模での気象変動に伴う災害は、図らずも社会に真に必要なとされる信頼性の高いモノづくり、長期に亘って普遍的な価値を創出することの大切さを広く知らしめることになったように思う。私が勤務する企業グループの事業精神には、信用確実、萬事入精、不趨浮利（道義にもとる不当な利益を追求して軽率・粗略に行動することの戒め）、人材の尊重、技術の重視、自利利他、公私一如などとともに「企画の遠大性」が謳われている。私はこれを、たとえ自分の世代で実現できないことであっても、信頼を積み重ね、長期的な視点で社会全体の利益を目指せば道を誤ることなく、技術の進歩を社会の真の豊かさにつなげられる、ということだと理解している。私の場合具体的には、PC技術の中で緊張材とそのシステムの信頼性を最大限に高めること、PC構造から緊張材周りの耐久性の問題をなくすこと、プレストレスをより有効に活用した構造の普及・発展を図ることだ。日々の業務のなかで、より高い信頼性に向けた取組み、企画の遠大性について自らに常に問い続けたいと考えている。

* Masato YAMADA：住友電工スチールワイヤー(株) 取締役 PC技術部長
本工学会監事